

年改まる

丸山弘子

仲よきもときに疎まし鶯^{ひよ}ら来て千両の朱き実あらあらと食ぶ

ゆく道の椿の花びらむしり食べ鶯^{ひよ}ひと声あげてとびたつ

いづへにて元朝過ごしし雀らか蒔きたる飯のさむざむとして

やや温き睦月尽日愛らしき声聞こえメジロの番来^{つがひ}てをり

死ぬるまで甘えよるさま語りくれアリスの飼主涙こぼしつ

かはいいと声をかければ七五三の装ひの少女ポーズして見す

訪ねたる横浜奈良町どの家も庭の柿の実みのらせしまま

年どしのクリスマスに飾る禮さんの遺しゆきたる刺繍のキャンドル

三十余年まもりくれたる玄関の扉とり替ふ年改まる

予報どほり夜に入りてなほしんと明日の雪かき裡^{うち}に重たし